

令和元年度大会宣言

平成から令和の時代となり、グローバル化が進み、人生百年時代、人工知能等の先端技術が高度化した超スマート社会Society5.0の到来に向けて、高等学校教育は高大接続改革と相まって様々な改革が推進されています。第三期教育振興基本計画では、夢と志を持ち、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、人間ならではの新たな価値を創造し、可能性に挑戦するために必要となる力と社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成することを方針に掲げています。

新しい高等学校学習指導要領では、何ができるようになるかを明確にし、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成、学びに向かう力、人間性の涵養を柱として内容が整理されています。各学校は主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と新教育課程の編成に取り組んでいます。私たち教頭・副校長は、常に生徒・保護者・地域の期待を明確に捉え、「ふれる」「かかわる」そして「つながる」を取組方針とし、社会に開かれた教育課程の実現を目指します。そのためには、教科横断的な学習を充実し、必要な人的・物的体制を確保し、組織的計画的に学校の教育活動の質を向上させるカリキュラム・マネジメントに努めることが重要です。

また、少子化・国際競争の進展の中で高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を一体的に改革する高大接続改革が進行しています。大学入学共通テストの導入に向けた試行調査も終わり、本年六月に令和三年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱及び大学入試英語成績提供システム運営大綱が公表されました。学力の三要素を多面的・総合的に評価する各大学の個別入学者選抜方法も予告され、一般選抜においても主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を積極的に評価するため、調査書の改善と電子化が示されています。

一方、国際教員指導環境調査 (TALIS) では、我が国の教員の仕事時間は最長という結果でした。それを受けて文部科学省は本年一月に公立学校の「教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を策定し、中央教育審議会は、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について (答申)」を公表しました。それには、学校及び教師が担うべき業務の明確化・適正化、部活動ガイドラインの遵守、部活動指導員の配置等が述べられています。各学校は、教師がゆとりを持って子どもたちと向き合う時間を確保していくことが必要です。

私たち教頭・副校長は、高い識見と広い視野を持ち、常に教育行政の動向を注視しつつ、様々な教育課題の解決に向けて率先して行動し、リーダーシップとマネジメント力を発揮していきます。そのためには、研究・研鑽に励み、その成果及び経験と体験を共有し交流する機会を持ち続けなければなりません。また、学校運営組織の中心となる人材を発掘・指導・育成し、外部人材も活用し、学校の活性化・特色化を図り、よりよい社会づくりに参画する力を育てる教育を推進する覚悟です。これらのことを銘記し、もって高校教育の充実・発展を期し、次の事項の実現に尽力することをここに宣言いたします。

- 一 夢や志を実現する心身ともに健やかな生徒を育てる、安全・安心な学校の整備と維持
- 一 思考力、判断力、表現力を備え、主体的に学び、新しい時代を切り拓く生徒の育成
- 一 未来につながる学校指導環境の整備と、社会に開かれた学校組織を担う人材の育成
- 一 教頭・副校長の研究・研鑽の確保、経験・体験を共有する機会の維持と推進

令和元年八月一日

第五十八回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会